



Red Hat Decision Manager 7.6

Red Hat Decision Manager 用のデシジョン管理
アーキテクチャの設計

Red Hat Decision Manager 7.6 Red Hat Decision Manager 用のデシジョン 管理アーキテクチャーの設計

Red Hat Customer Content Services
brms-docs@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書では、デシジョン管理アーキテクチャーの設計時に考慮する必要がある、Red Hat Decision Manager の実装に関する基本的な概念とオプションを説明します。環境に最適な実装を確認するには、Red Hat テクニカルアカウントマネージャーまたはソリューションアーキテクトにお問い合わせください。

目次

はじめに	3
第1章 RED HAT DECISION MANAGER のインストール環境オプション	4
第2章 RED HAT DECISION MANAGER におけるデシジョン作成アセット	5
第3章 RED HAT DECISION MANAGER を使用したプロジェクトストレージとビルドオプション	9
第4章 RED HAT DECISION MANAGER を使用したプロジェクトデプロイメントオプション	12
第5章 RED HAT DECISION MANAGER を使用したアセット実行オプション	14
第6章 RED HAT DECISION MANAGER を使用したデシジョン管理アーキテクチャーの例	15
第7章 関連情報	20
付録A バージョン情報	21

はじめに

ビジネス自動化環境での要件によって、ビジネスアナリスト、システム管理者、またはビジネスルール開発者が作成する Red Hat Decision Manager のビジネスアセットのタイプや、このようなビジネスアセットを開発/保存/実行/デプロイする方法は異なります。アセット開発には Business Central または外部統合開発環境 (IDE)、ストレージおよびバージョン管理にはビルトインまたは外部 Git リポジトリ、デプロイメントには Decision Server または埋め込み型アプリケーション、またはその他の実装の組み合わせを使用するデシジョン管理アーキテクチャーを設計できます。Red Hat Decision Manager を Red Hat OpenShift Container Platform 環境にデプロイして、コンテナ実装を強化することもできます。

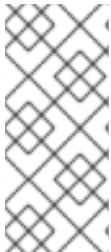
本書では、デシジョン管理アーキテクチャーの設計時に考慮する必要のある、Red Hat Decision Manager の実装に関する基本的な概念とオプションを説明します。環境に最適な実装を確認するには、Red Hat テクニカルアカウントマネージャーまたはソリューションアーキテクトにお問い合わせください。

第1章 RED HAT DECISION MANAGER のインストール環境オプション

Red Hat Decision Manager を使用して、ビジネスアプリケーションを開発する開発環境、デシジョンをサポートするアプリケーションを実行するランタイム環境、またはその両方を設定できます。

- **開発環境:** 通常、1つの Business Central インストールと1つ以上の Decision Server インストールで設定されます。開発者は Business Central を使用して、デシジョンやその他のアーティファクトを作成できるほか、Decision Server を使用して、作成したアーティファクトをテストできます。
- **ランタイム環境:** ランタイム環境は、1つ以上の Decision Server インスタンスに Business Central があリまたはなしの形で設定されます。Business Central には Decision Manager コントローラーが組み込まれています。Business Central をインストールしている場合は、**Menu → Deploy → Execution Server** ページを使用してコンテナを作成および維持します。Business Central なしで Decision Server の管理を自動化するには、ヘッドレス Decision Manager コントローラーを使用することで可能になります。

また、開発環境およびランタイム環境の両方をクラスター化することもできます。クラスター化した開発環境またはランタイム環境は、統合グループまたは2台以上のサーバーのクラスターで設定されます。Red Hat Decision Manager の開発環境をクラスター化では、高可用性や連携の強化という利点があり、ランタイム環境のクラスター化では、高可用性と負荷分散の利点があります。高可用性により、1台のサーバーで障害が発生したときにデータが損失する可能性を減らすことができます。サーバーでの障害発生時に、別のサーバーにより、障害が発生したサーバーにあるデータのコピーを提供して補足します。障害が発生したサーバーが再度オンラインになったら、クラスターに戻ります。負荷分散はクラスターのノード間でコンピューティング負荷を共有します。これにより、パフォーマンスが改善します。



注記

ランタイム環境のクラスター化は、Red Hat JBoss EAP 7.2 および Red Hat OpenShift Container Platform でのみサポートされています。Business Central のクラスターリングは現在テクノロジープレビューとなっており、実稼働環境での使用はまだ想定されていません。Red Hat テクノロジープレビュー機能の詳細は [テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

関連情報

- [Red Hat Decision Manager インストールの計画](#)
- [Red Hat Decision Manager 7 でサポートされる設定](#)
- [Red Hat Decision Manager 7 コンポーネントの詳細](#)

第2章 RED HAT DECISION MANAGER におけるデシジョン作成アセット

Red Hat Decision Manager は、デシジョンサービスにビジネスデシジョンを定義するのに使用可能なアセットを複数サポートします。デシジョン作成アセットはそれぞれ長所が異なるため、目的やニーズに合わせて、アセットを1つ、または複数を組み合わせて使用できます。

以下の表では、デシジョンサービスでデシジョンを定義する最適な方法を選択できるように、Red Hat Decision Manager プロジェクトでサポートされている主なデシジョン作成アセットを紹介します。

表2.1 Red Hat Decision Manager でサポートされるデシジョン作成アセット

アセット	主な特徴	オーサリングツール	ドキュメント
DMN (Decision Model and Notation) モデル	<ul style="list-style-type: none"> Object Management Group (OMG) が定義する標準記法に基づくデシジョンモデルである 1つまたは複数の意思決定要件グラフ (DRG: decision requirements graph) を含むグラフィカルな意思決定要件ダイアグラム (DRD: decision requirements diagram) を使用してビジネスの意思決定フローを追跡する DMN モデルが DMN 準拠プラットフォーム間で共有できるようにする XML スキーマを使用する DMN デシジョンテーブルおよび他の DMN ボックス式表現 (Boxed Expression) でデシジョンロジックを定義する Friendly Enough Expression Language (FEEL) をサポートする 包括性、具体性、および安定性のある意思決定フローの作成に最適である 	Business Central または DMN 準拠のエディター	DMN モデルを使用したデシジョンサービスの作成

アセット	主な特徴	オーサリングツール	ドキュメント
ガイド付きデシジョンテーブル	<ul style="list-style-type: none"> ● Business Central の UI ベースのテーブルデザイナーで作成するルールテーブルである ● デシジョンテーブルにスプレッドシートで対応する代わりにウィザードで対応する ● 条件を満たした入力に、フィールドとオプションを提供する ● ルールテンプレートを作成するテンプレートキーと値をサポートする ● その他のアセットではサポートされていないヒットポリシー、リアルタイム検証などの追加機能をサポートする ● コンパイルエラーを最小限に抑えるため、制限されているテーブル形式でルールを作成するのに最適である 	Business Central	ガイド付きデシジョンテーブルを使用したデシジョンサービスの作成
スプレッドシートのデシジョンテーブル	<ul style="list-style-type: none"> ● Business Central にアップロード可能な XLS または XLSX スプレッドシート形式のデシジョンテーブルである ● ルールテンプレートを作成するテンプレートキーと値をサポートする ● Business Central 外で管理しているデシジョンテーブルでルールを作成するのに最適である ● アップロード時に適切にルールをコンパイルするために厳密な構文要件がある 	スプレッドシートエディター	スプレッドシート形式のデシジョンテーブルを使用したデシジョンサービスの設計
ガイド付きルール	<ul style="list-style-type: none"> ● Business Central の UI ベースのルールデザイナーで作成する個々のルールである ● 条件を満たした入力に、フィールドとオプションを提供する ● コンパイルエラーを最小限に抑えるため、制御されている形式で単独のルールを作成するのに最適である 	Business Central	ガイド付きルールを使用したデシジョンサービスの設計

アセット	主な特徴	オーサリングツール	ドキュメント
ガイド付きルールテンプレート	<ul style="list-style-type: none"> ● Business Central の UI ベースのテンプレートデザイナーで作成する再利用可能なルール構造である ● 条件を満たした入力に、フィールドとオプションを提供する ● (このアセットの目的の基本となる) ルールテンプレートを作成するテンプレートのキーと値をサポートする ● ルール構造が同じで、定義したフィールド値が異なるルールを多数作成するのに最適である 	Business Central	ガイド付きルールテンプレートを使用したデシジョンサービスの設計
DRL ルール	<ul style="list-style-type: none"> ● .drl テキストファイルに直接定義する個々のルールである ● 最も柔軟性が高く、ルールと、ルール動作に関するその他の技術を定義できる ● スタンドアロン環境で作成し、Red Hat Decision Manager に統合可能である ● 詳細な DRL オプションを必要とするルールを作成するのに最適である ● ルールを適切にコンパイルするための厳密な構文要件がある 	Business Central または統合開発環境 (IDE)	DRL ルールを使用したデシジョンサービスの作成

アセット	主な特徴	オーサリングツール	ドキュメント
予測モデルマークアップ言語 (PMML: Predictive Model Markup Language) モデル	<ul style="list-style-type: none">● Data Mining Group (DMG) が定義する標準記法に基づく予測データ分析モデルである● PMML モデルを PMML 準拠プラットフォーム間で共有できるようにする XML スキーマを使用する● 回帰、スコアカード、ツリー、マイニングなどのモデルタイプをサポートする● スタンドアロンの Red Hat Decision Manager プロジェクトに追加したり、Business Central のプロジェクトにインポートしたりできる● Red Hat Decision Manager のデシジョンサービスに予測データを統合するのに最適である	PMML または XML エディター	PMML モデルを使用したデシジョンサービスの設計

第3章 RED HAT DECISION MANAGER を使用したプロジェクトストレージとビルドオプション

Red Hat Decision Manager プロジェクトの開発時には、バージョン管理されたりポジトリリーを使用してプロジェクトのバージョンを追跡し、安定した環境でプロジェクトアセットを管理し、テストおよびデプロイメント用にプロジェクトをビルドできるようにする必要があります。このようなすべてのタスクに対して、Business Central を使用するか、Business Central と外部ツールおよびリポジトリリーの組み合わせを使用できます。Red Hat Decision Manager は、プロジェクトのバージョン管理用の Git リポジトリリー、プロジェクト管理用の Apache Maven、およびさまざまな Maven ベース、Java ベース、またはカスタムツールベースのビルドオプションをサポートしています。

次のオプションは、Red Hat Decision Manager プロジェクトのバージョン管理、ストレージ、ビルドの主な方法です。

表3.1 プロジェクトのバージョン管理オプション (Git)

バージョン管理オプション	説明	ドキュメント
Business Central の Git VFS	Business Central には、組み込み型の Git Virtual File System (VFS) が含まれており、ここにオーサリング環境で作成したプロセス、ルール、その他のアーティファクトをすべて保存します。Git は、リビジョンをコミットオブジェクトとして実装する分散バージョン管理システムです。リポジトリリーに変更をコミットすると、Git リポジトリリーに新しいコミットオブジェクトが作成されます。Business Central にプロジェクトを作成すると、そのプロジェクトは Business Central に接続される Git リポジトリリーに追加されます。	NA
外部 Git リポジトリリー	Business Central 外の Git リポジトリリーに Red Hat Decision Manager プロジェクトがある場合は、このプロジェクトを Red Hat Decision Manager スペースにインポートし、Git フックを使用して内部と外部の Git リポジトリリーを同期できます。	Business Central でのプロジェクトの管理

表3.2 プロジェクト管理オプション (Maven)

管理オプション	説明	ドキュメント
---------	----	--------

管理オプション	説明	ドキュメント
Business Central Maven リポジトリ	<p>Business Central には、オーサリング環境で作成したプロジェクトアセットを整理およびビルドする組み込み型の Maven リポジトリが含まれています。Maven は、リポジトリを使用して Java ライブラリー、プラグイン、およびその他のビルドアーティファクトを格納する分散ビルド自動化ツールです。プロジェクトとアーキタイプをビルドする場合、Maven はローカルリポジトリまたはリモートリポジトリから Java ライブラリーと Maven プラグインを動的に取得して、プロジェクト間の共有依存関係をプロモートします。</p> <div>  <div> <p>注記</p> <p>実稼働環境では、Business Central で設定した外部 Maven リポジトリの使用を検討してください。</p> </div> </div>	NA
外部 Maven リポジトリ	<p>Nexus や Artifactory などの外部 Maven リポジトリに Red Hat Decision Manager プロジェクトがある場合は、接続情報を使用して settings.xml ファイルを作成し、そのファイルのパスをプロジェクトの standalone-full.xml ファイルの kie.maven.settings.custom プロパティに追加します。</p>	<p>Maven Settings Reference</p> <p>Red Hat Decision Manager プロジェクトのパッケージ化およびデプロイ</p>

表3.3 プロジェクトビルドオプション

ビルドオプション	説明	ドキュメント
Business Central (KJAR)	<p>Business Central は、組み込み型 Maven リポジトリまたは設定した外部 Maven リポジトリのいずれかに保存されている Red Hat Decision Manager プロジェクトをビルドします。Business Central のプロジェクトは、プロジェクトのビルド時に、デプロイメントに必要な全コンポーネントが含まれるナレッジ JAR (KJAR) ファイルとして自動的にパッケージ化されます。</p>	<p>Red Hat Decision Manager プロジェクトのパッケージ化およびデプロイ</p>
スタンドアロン Maven プロジェクト (KJAR)	<p>Business Central 外にスタンドアロンの Red Hat Decision Manager Maven プロジェクトがある場合は、プロジェクトの pom.xml ファイルを編集して、プロジェクトを KJAR ファイルとしてパッケージ化し、プロジェクトのビルドに必要な KIE ベースおよび KIE セッションの設定が含まれる kmodule.xml ファイルを追加します。</p>	<p>Red Hat Decision Manager プロジェクトのパッケージ化およびデプロイ</p>

ビルドオプション	説明	ドキュメント
埋め込み型 Java アプリケーション (KJAR)	埋め込み型 Java アプリケーションをもとに Red Hat Decision Manager プロジェクトをビルドする場合には、 KieModuleModel インスタンスを使用して KIE ベースおよび KIE セッション設定を含む kmodule.xml ファイルをプログラムで作成し、プロジェクトの全リソースを、KIE 仮想ファイルシステム KieFileSystem に追加してプロジェクトをビルドします。	Red Hat Decision Manager プロジェクトのパッケージ化およびデプロイ
CI/CD ツール (KJAR)	継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD) にツールを使用する場合は、Red Hat Decision Manager Git リポジトリと統合して、指定されたプロジェクトをビルドするようにツールセットを設定できます。デプロイメントの最適化を図るため、プロジェクトが KJAR ファイルとしてパッケージ化およびビルドされていることを確認してください。	NA
OpenShift の S2I (コンテナイメージ)	Red Hat OpenShift Container Platform で Red Hat Decision Manager を使用する場合は、Red Hat Decision Manager プロジェクトを通常の方法で KJAR ファイルとしてビルドするか、Source-to-Image (S2I) を使用してプロジェクトをコンテナイメージとしてビルドできます。S2I は、アプリケーションのソースコードを入力として使用するイメージを記述して、アセンブルされたアプリケーションを実行する新規イメージを出力として作成できるフレームワークおよびツールです。開発者が簡単に再現可能なコンテナイメージをビルドできる点が、S2I ツールを使用する主な利点です。	Creating Images in OpenShift

第4章 RED HAT DECISION MANAGER を使用したプロジェクトデプロイメントオプション

Red Hat Decision Manager プロジェクトの開発、テスト、ビルド後に、プロジェクトをデプロイして、作成したビジネスアセットの使用を開始できます。Red Hat Decision Manager プロジェクトは、コンテナ実装を強化するために、設定済みの Decision Server、埋め込み型 Java アプリケーション、または Red Hat OpenShift Container Platform 環境にデプロイできます。

次のオプションは、Red Hat Decision Manager プロジェクトのデプロイメントの主な方法です。

表4.1 プロジェクトデプロイメントオプション

デプロイメントオプション	説明	ドキュメント
OpenShift 環境へのデプロイメント	Red Hat OpenShift Container Platform は、Docker と Kubernetes を組み合わせて、コンテナの作成と管理を可能にします。Business Central と Decision Server はどちらも、OpenShift にインストールすることができます。Red Hat Decision Manager は、Red Hat Decision Manager オーサリング環境、管理サーバー環境、イミュータブルサーバー環境、または試用環境を OpenShift にデプロイするために使用できるテンプレートを提供します。OpenShift では、Red Hat Decision Manager のコンポーネントは、個別の OpenShift Pod としてデプロイされます。各 Pod のスケールアップとダウンを個別に行い、特定のコンポーネントに必要な数だけコンテナを提供できます。標準の OpenShift の手法を使用して Pod を管理し、負荷を分散できます。	Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Decision Manager イミュータブルサーバー環境のデプロイメント Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Decision Manager オーサリングまたは管理サーバー環境のデプロイメント Operator を使用した Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Decision Manager 環境のデプロイメント Red Hat OpenShift Container Platform への Red Hat Decision Manager 試用環境のデプロイメント

デプロイメントオプション	説明	ドキュメント
Decision Server へのデプロイメント	<p>Decision Server は、Red Hat Decision Manager に含まれるサーバーで、パッケージ化およびデプロイされた Red Hat Decision Manager プロジェクト (KJAR ファイル) からデシジョンサービス、プロセスアプリケーション、およびその他のデプロイ可能なアセットを実行します。このようなサービスは、ランタイム時に、インスタンス化した KIE コンテナ、または デプロイメントユニット を介して使用されます。Business Central を使用するか、関連する REST API (管理対象の Decision Server インスタンスと見なされる) を備えたヘッドレス Decision Manager コントローラーを使用して、Decision Server でデプロイメントユニットをデプロイおよび保守できます。また、スタンドアロン Maven プロジェクト、埋め込み型 Java アプリケーション、またはその他のカスタム環境 (管理対象外の Decision Server インスタンスと見なされる) から Decision Server REST API または Java クライアント API を使用して、デプロイメントユニットをデプロイおよび管理できます。</p>	<p>Red Hat Decision Manager プロジェクトのパッケージ化およびデプロイ</p> <p>KIE API を使った RED HAT DECISION MANAGER の操作</p> <p>Decision Server の管理とモニタリング</p>
埋め込み型 Java アプリケーションへのデプロイメント	<p>Red Hat Decision Manager プロジェクトを独自の Java 仮想マシン (JVM) 環境、マイクロサービス、またはアプリケーションサーバーにデプロイする場合は、プロジェクト WAR ファイルにアプリケーションリソースをバンドルして、KIE コンテナに似たデプロイメントユニットを作成できます。また、コア KIE API (Decision Server API ではない) を使用して、KIE コンテナを定期的に更新するように KIE スキャナーを設定することもできます。</p>	<p>KIE Public API</p>

第5章 RED HAT DECISION MANAGER を使用したアセット実行オプション

Red Hat Decision Manager プロジェクトをビルドして Decision Server または他の環境にデプロイした後に、デプロイされたアセットを実行してテストまたはランタイムで使用できます。デプロイメント後のアセットの実行に加え、または実行の代わりに、ローカルでアセットを実行することもできます。

次のオプションは、Red Hat Decision Manager アセット実行の主な方法です。

表5.1 アセット実行オプション

実行オプション	説明	Documentation
Decision Server での実行	Red Hat Decision Manager プロジェクトアセットを Decision Server にデプロイした場合に、Decision Server REST API または Java クライアント API を使用して、デプロイされたアセットを実行および操作できます。また、Business Central または Business Central の外部にあるヘッドレス Decision Manager コントローラーを使用して、デプロイされたアセットに関連付けられた Decision Server インスタンスの設定と KIE コンテナを管理することもできます。	KIE API を使った RED HAT DECISION MANAGER の操作
埋め込み型 Java アプリケーションでの実行	独自の Java 仮想マシン (JVM) 環境、マイクロサービス、またはアプリケーションサーバーに Red Hat Decision Manager プロジェクトアセットをデプロイした場合は、カスタム API またはアプリケーションとコア KIE API (Decision Server API ではない) との対話により、埋め込みエンジンでアセットを実行できます。	KIE Public API
ローカル環境で実行して拡張テストを行う方法	開発サイクルの一部として、アセットをローカルで実行して、Red Hat Decision Manager 機能で作成したアセットが想定どおりに機能することを確認できます。デプロイメント後のアセット実行に加え、または実行の代わりに、ローカル実行を使用できます。	DRL ルールを使用した意思決定サービスの設計の「ルールの実行」

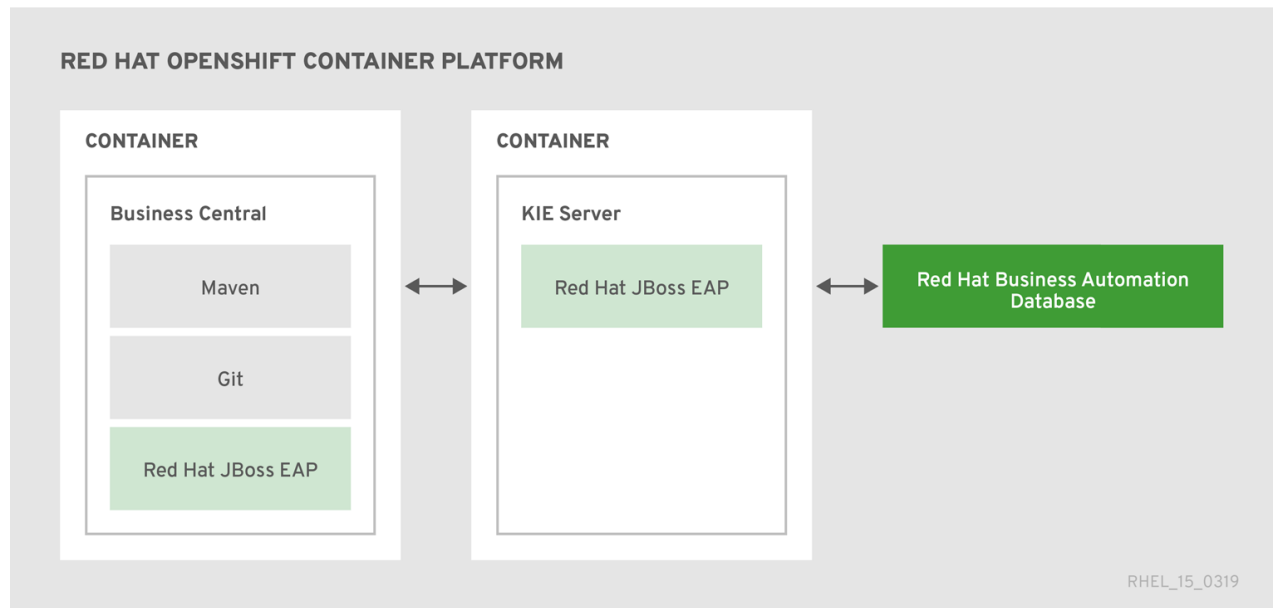
第6章 RED HAT DECISION MANAGER を使用したデシジョン管理アーキテクチャーの例

以下のシナリオは、デシジョン管理アーキテクチャーにおける Red Hat Decision Manager のインストール、アセットオーサリング、プロジェクトストレージ、プロジェクトデプロイメント、およびアセット実行の一般的なバリエーションを示しています。各セクションでは、使用方法とツール、および特定のアーキテクチャーの利点をまとめています。これらの例は基本的なものであり、Red Hat Decision Manager の具体的な目的やニーズに応じて検討できる組み合わせのごく一部です。

Business Central および Decision Server を備えた OpenShift 上の Red Hat Decision Manager オーサリングおよび管理サーバー環境

- **インストール環境:** `rhdm76-authoring.yaml` および `rhdm76-kieserver.yaml` テンプレートファイルを使用した Red Hat OpenShift Container Platform の Red Hat Decision Manager
- **プロジェクトストレージとビルド環境:** Git フックを使用して Business Central Git リポジトリと同期するプロジェクトバージョン管理用の外部 Git リポジトリ、および Decision Server で設定されたプロジェクト管理とビルド用の外部 Maven リポジトリ
- **アセットオーサリングツール:** Business Central
- **主なアセットタイプ:** デシジョンのための Decision Model and Notation (DMN) モデル
- **プロジェクトデプロイメントおよび実行環境:** Red Hat OpenShift Container Platform の Decision Server
- **シナリオの利点:**
 - クラウドベースのデプロイメント環境での Red Hat Decision Manager のコンテナ化された実装。Red Hat Decision Manager のコンポーネントは、別の OpenShift Pod としてデプロイされます。各 Pod を個別にスケールアップおよびスケールダウンして、特定のコンポーネントに必要な数だけコンテナを提供できます。標準の OpenShift の手法を使用して Pod を管理し、負荷を分散できます。
 - Business Central のリポジトリ、アセット、アセットデザイナー、およびプロジェクトビルドオプションへのアクセス。
 - 統合と安定性の最適化を図るために DMN を使用する、標準化されたアセットオーサリングアプローチ。
 - アセットのデプロイメントと実行のための Decision Server 機能と KIE API へのアクセス。

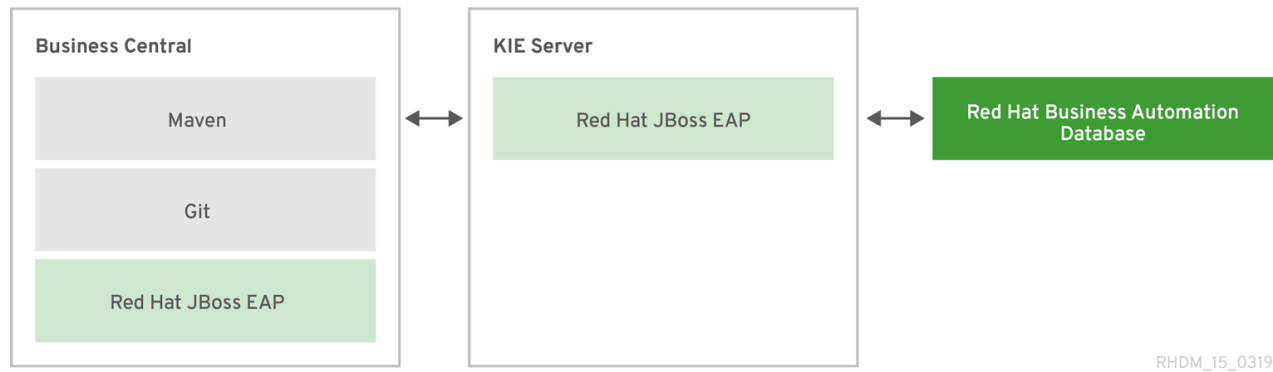
図6.1 Business Central と Decision Server を備えた OpenShift での Red Hat Decision Manager



Business Central と Decision Server を備えた Red Hat JBoss EAP での Red Hat Decision Manager

- **インストール環境:** Red Hat JBoss Enterprise Application Platform の Red Hat Decision Manager
- **プロジェクトストレージとビルド環境:** Git フックを使用して Business Central Git リポジトリと同期するプロジェクトバージョン管理用の外部 Git リポジトリ、および Decision Server で設定されたプロジェクト管理とビルド用の外部 Maven リポジトリ
- **アセットオーサリングツール:** Business Central
- **主なアセットタイプ:** デシジョンのための Decision Model and Notation (DMN) モデル
- **プロジェクトデプロイメントおよび実行環境:** Decision Server
- **シナリオの利点:**
 - オンプレミス開発環境での Red Hat Decision Manager の安定した実装
 - Business Central のリポジトリ、アセット、アセットデザイナー、およびプロジェクトビルドオプションへのアクセス
 - 統合と安定性の最適化を図るために DMN を使用する、標準化されたアセットオーサリングアプローチ
 - アセットのデプロイメントと実行のための Decision Server 機能と KIE API へのアクセス

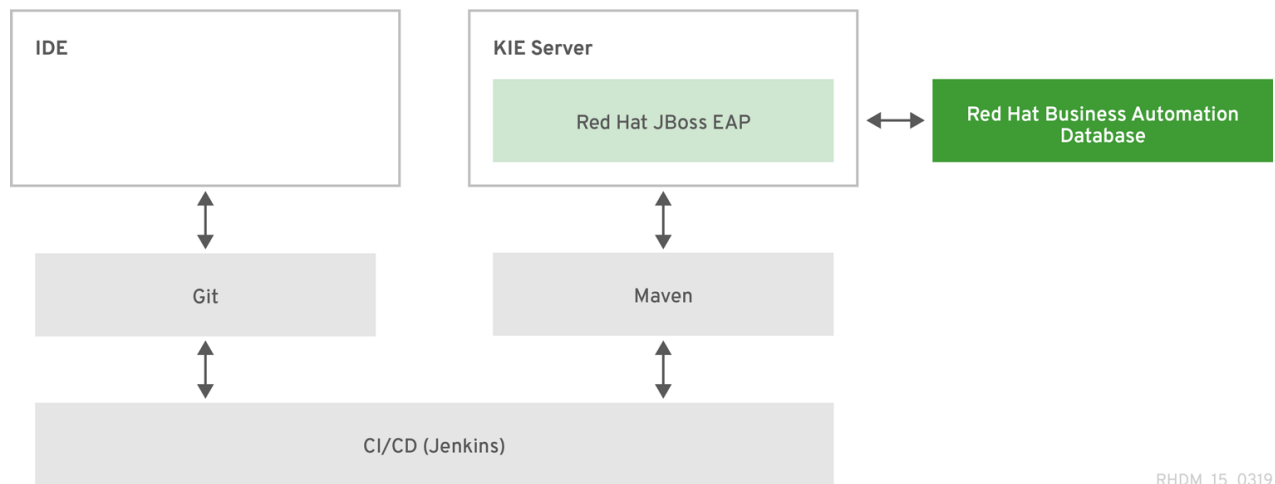
図6.2 Business Central と Decision Server を備えた Red Hat JBoss EAP での Red Hat Decision Manager



IDE と Decision Server を備えた Red Hat JBoss EAP での Red Hat Decision Manager

- **インストール環境**: Red Hat JBoss Enterprise Application Platform の Red Hat Decision Manager
- **プロジェクトストレージとビルド環境**: プロジェクトバージョン管理用の外部 Git リポジトリ (Business Central と同期されない)、および Decision Server で設定されたプロジェクト管理とビルド用の外部 Maven リポジトリ
- **アセットオーサリングツール**: Red Hat CodeReady Studio などの統合開発環境 (IDE)、およびその他のデシジョン形式のスプレッドシートエディターまたは DMN (Decision Model and Notation) モデリングツール
- **主なアセットタイプ**: Drools ルール言語 (DRL) ルール、スプレッドシートデシジョンテーブル、デシジョン用の DMN (Decision Model and Notation) モデル
- **プロジェクトデプロイメントおよび実行環境**: Decision Server
- **シナリオの利点**:
 - オンプレミス開発環境での Red Hat Decision Manager の柔軟な実装
 - 外部 IDE およびその他のアセットオーサリングツールを使用してビジネスアセットを定義する機能
 - アセットのデプロイメントと実行のための Decision Server 機能と KIE API へのアクセス

図6.3 IDE と Decision Server を備えた Red Hat JBoss EAP での Red Hat Decision Manager

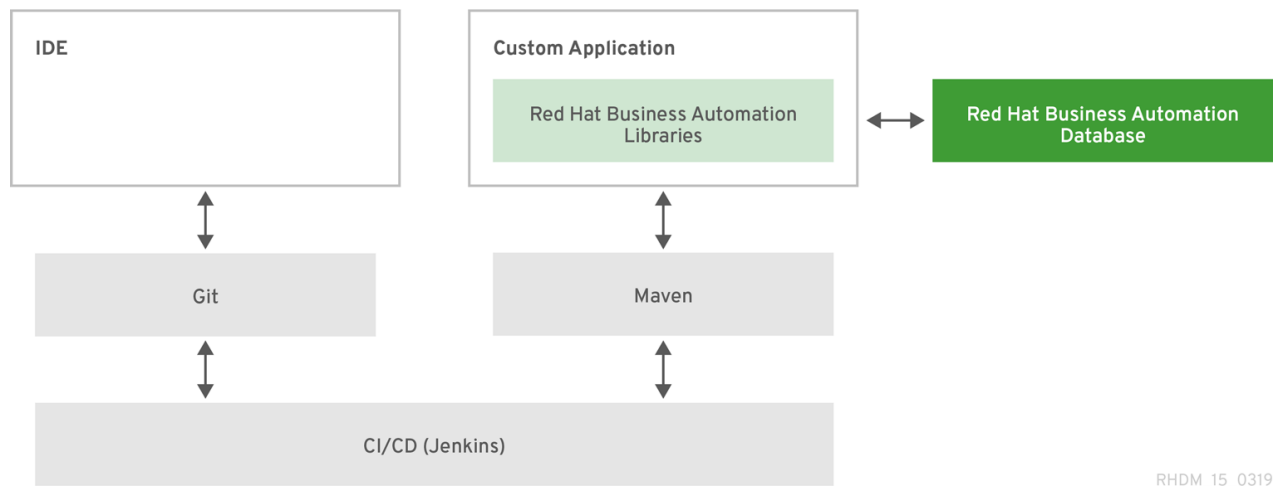


RHDM_15_0319

IDE および埋め込み型 Java アプリケーションを使用する Red Hat Decision Manager

- **インストール環境:** カスタムアプリケーション内に埋め込まれた Red Hat Decision Manager ライブラリー
- **プロジェクトストレージとビルド環境:** プロジェクトバージョン管理用の外部 Git リポジトリ (Business Central と同期されない)、および埋め込み型 Java アプリケーションで設定されたプロジェクト管理 (Decision Server で設定されていない) とビルド用の外部 Maven リポジトリ
- **アセットオーサリングツール:** Red Hat CodeReady Studio などの統合開発環境 (IDE)、およびその他のデシジョン形式のスプレッドシートエディターまたは DMN (Decision Model and Notation) モデリングツール
- **主なアセットタイプ:** Drools ルール言語 (DRL) ルール、スプレッドシートデシジョンテーブル、デシジョン用の DMN (Decision Model and Notation) モデル
- **プロジェクトデプロイメントおよび実行環境:** Java 仮想マシン (JVM) 環境、マイクロサービス、カスタムアプリケーションサーバーなどにある埋め込み型 Java アプリケーション
- **シナリオの利点:**
 - 埋め込み型 Java アプリケーションを使用したオンプレミス開発環境での Red Hat Decision Manager のカスタム実装
 - 外部 IDE およびその他のアセットオーサリングツールを使用してビジネスアセットを定義する機能
 - カスタム API を使用した (Decision Server API ではなく) コア KIE API の対話と、埋め込みエンジンでのアセット実行

図6.4 IDE および埋め込み型 Java アプリケーションを使用する Red Hat Decision Manager



第7章 関連情報

- [Red Hat Decision Manager インストールの計画](#)
- [デシジョンサービスのスタートガイド](#)
- [Red Hat Business Optimizer のスタートガイド](#)
- [Red Hat Decision Manager プロジェクトのパッケージ化およびデプロイ](#)

付録A バージョン情報

本書の最終更新日: 2021 年 11 月 15 日 (月)